

大瀧山福生寺本堂



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	おおたきさんふくしょうじほんどう
所在地	備前市大内
指定年月日	平成15年3月11日
解説	天和2年(1682)に岡山藩主池田綱政により再建。桁行五間、梁間五間、向拝一間の入母屋造、本瓦葺。寺伝・縁起等によれば天平勝宝年間(749～757)に鑑真和上が開基し、後に報恩大師による備前四十八ヶ寺の一つに加えられたが、鎌倉時代に火災により荒廃。その後、足利尊氏が領主となり再興したが、康正元年(1454)に兵火で焼失した。本堂棟木下面の墨書から、邑久郡虫明村の藤原吉田仁三郎が大工であったことが判明。なお、18世紀に大きな改造を受けた部分もあるが、17世紀に建立された五間堂として評価される。
アクセス方法	JR伊部駅から車で約10分、宇野バス「大内」バス停から徒歩約40分
公開状況	外観のみ
設備	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 20px;"> 駐車場  トイレ  </div>
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	大瀧山福生寺本堂
よみかた	おおたきさんふくしょうじほんどう
しょざいち (所在地)	備前市大内
していたひ (指定した日)	平成15年3月11日
せつめい	1682年(ねん)に建(た)てられた大(おお)きな本堂(ほんどう)です。虫明村(むしあけそん)(現在(げんざい)の瀬戸内市虫明(せとうちむしあけ)の大工(だいく)がかかわったことが分(わ)かっています。この他(ほか)、福生寺(ふくしょうじ)には、国指定重要文化財(くにしていじゅうようぶんかざい)の三重塔(さんじゅうのとう)や県指定重要文化財(けんしていじゅうようぶんかざい)仁王門(におうもん)などがあります。